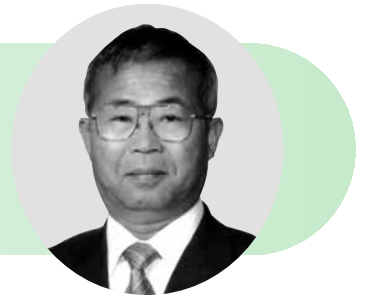


三 宮 十五郎 議員



17年度の行革20%カットを見直すべきではないか

問

17年度の弥富町の行政改革で、20%財政カットを名目に、民生・児童委員、老人クラブや子ども会等の活動費や補助金が削減された。すでに公共施設の利用料等は改善の方向が打ち出されているが、関係者等と十分な協議をし、必要なものは助成すべきではないか。

区長報酬は今一度検討したい

答 市長

17～19年度の3年間では約8,000万円の赤字の見込みで、決して楽観を許さない状況であり、さらなる行政改革を進めていかなければならないと思う。

区長・区長補助員報酬は、

防災対策を市政の中心に位置付けよ

改定後に市制施行という転換期もあり、今一度、近隣市町村の状況を把握し、さまざまな角度から検討したい。

問

弥富中学校移転関係で約40億円の支出をしても、赤字がほぼ出ないほど財政状況も良く、行革による削減は必要なかったと思う。

各種団体の果たす役割を思うと、市として必要な支援をすべきではないか。

答 市長

貴重な意見として聞いたが、一遍にはなかなかできないことも十分理解してほしい。

問
防災計画を市政の中心課題として位置付けるべきではないか。

弥生・桜学区へ2基目の貯水槽設置を検討

答 市長

最重要課題ととらえている。今後その方針を貫いていきたい。

貯水槽は今後、人口比で設置すべきであり、弥生・桜学区については、2基目の設置を検討したいと考える。

下水道は防災面から浄化槽も含めた検討を

問

次の下水道事業について尋ねる。

(1) 52年間660億円の事業費のうち、市負担額はほぼ交付税措置されると計画されているが、人件費が

入っており、総務省でも「必要経費が回収できない市町村が増える」との見通しを示している。

将来の財政見通しと住民負担を明らかにし、無理のない計画に修正すべきではないか。

(2) 震災時の復旧を考えた場合、地域によっては、合併処理浄化槽整備の方が事業効果上がるのなら、検討すべきではないか。

今の段階ではないと思う

答 市長

(1) 社会資本の充実、後世に環境整備を残す必要性において、これからも進めていかなければならない。

答 副市長

(2) 浄化槽整備は、この地域については今の段階はないと思っている。

しかし、先々に飛び地等、部分的に議論すべき状況はあり得ると思う。